

# 歯科医院における医療訴訟の現状と対策

【裁判が直近の医療水準に照らし、患者の経過・観察義務違反を認定した事例】

【裁判が直近の医療水準に照らし、患者の転医・転送義務違反を認定した事例】

私は「歯科医師の、歯科医師による、歯科医師のための紛争解決」を志向した“あるべき”法務を求め、35年余、歯科医師の紛争解決の臨床弁護士としてその業に携わってきた。

歯科医師をめぐる紛争を、社会的存在としての歯科医師の視点から分類すると、「医療供給者としての歯科医師」「医院経営者としての歯科医師」「私人（個人）としての歯科医師」の紛争におおむね類型化できる。しかし、これらの紛争は常に相関関係にあり、医療過誤の問題が歯科医院の破綻の契機に、歯科衛生士らの雇用問題が医療過誤の事件の契機に、また夫婦（男女）関係の問題が医療過誤の事件の契機になるなど、その紛争は多種多様で複雑である。

しかも、この35年余の間に医科・歯科ともに先端医療機器・設備の医療の発展は著しく、これと連動して医科・歯科学の知見・技術の進歩にも著しいものがある。その結果、医師・歯科医師のいわゆる医療水準も著しく高度化し、多様化した。

これと同時に、レセコン、PC等による医療業務のデジタル化も進化し、診療業務と報酬の透明化と可視化が要請されている。さらに、医療版マイナンバーによる医療情報の一元化・効率化も予定されている。

さて、今回は、これらの諸課題のうち、“医療訴訟の現状と対策”、なかでも医療過誤事件、特にアナフィラキシーショックに関するさいたま地裁平成22年12月16日の「開業歯科医師の経過・観察義務違反事件」、加えて非定型歯痛に関する長野地裁上田支部平成23年3月4日の「開業歯科医師の転医・転送義務違反事件」を検証し、直近の裁判が歯科医師に求めている医療水準を論じ、特に大学病院と歯科医院の医療水準並びに自由診療と保険診療の医療水準はいずれも異なるものか否かを検証する。

以上

【略 歴】

- 1970年 3月 中央大学法学部法律学科卒業  
1979年 4月 弁護士登録(日本弁護士連合会会員番号 16727号・東京弁護士会所属)

【職 歴】

- 1983年 6月 東京地方裁判所破産管財人(1998年2月迄)  
1988年 4月 東京弁護士会民事介入暴力対策特別委員会委員(1990年3月迄)  
1990年 3月 学校法人朝日大学評議員(2003年3月迄)  
1990年 6月 学校法人朝日大学監事(現在に至る)  
1992年 10月 東京地方裁判所和議管財人(1993年3月迄)  
1993年 3月 明海大学歯学部非常勤講師(1998年3月迄)  
1998年 3月 学校法人明海大学監事(現在に至る)  
2000年 4月 東京弁護士会監事(2001年3月迄)  
2000年 6月 東京地方裁判所民事再生法監督員(2003年9月迄)  
2001年 4月 東京弁護士会財務委員会委員(2010年3月迄)  
2001年 4月 東京地方裁判所建築紛争専門調停委員(2010年5月迄)  
2001年 4月 東京弁護士会市民窓口委員会委員(現在に至る)  
2002年 4月 公益社団法人日本口腔外科学会顧問(現在に至る)  
2012年 6月 特定非常利活動法人日本顎咬合学会顧問(現在に至る)  
2016年 4月 一般社団法人日本歯科医学会連合 監事(現在に至る)

【著 書】

- 「破産否認の事例研究」(共著・商事法務研究会)
- 「ケース・スタディ不動産取引」(共著・商事法務研究会)
- 「歯科医院法務入門」(単著・クインテッセンス出版)
- 「破産直前の多重債務者に対する免責の判断基準」(論文・債権管理・民事法情報センター)
- 「破産者の給与等債権とその否認権行使」(論文・農協金融法務)
- 「歯科医をめぐる法的紛争の臨床例とその処方箋」(連載・歯科医院経営研究会)
- 「歯科医始末記」(連載・歯科医院経営研究会)
- 「口腔外科ハンドマニュアル'05'06'11」(共著・クインテッセンス出版)
- 「歯科医療の安全管理 支援いたします！ '07～インフォームド・コンセント/自己決定権の現実と実践～」(共著・ヒョロンパブリッシャーズ)
- 「デンタルインプラントロジー2013・Vol.20 No4～裁判が求めるインプラントの医療水準を知る～」(共著・クインテッセンス出版)
- 「抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン・2015年改訂版」(監修・学術社)
- 「明日は我が身とならないための 事例 歯科医院法務 まなび塾」(共著・デンタルダイヤモンド社)

ほか。